

# 大志を育む



令和4年1月27日  
(教職員向け)  
教育委員会だより  
No. 44

発行：北広島市教育委員会

## 「小中一貫教育全国サミット in 北広島」大会を終えて

小中一貫・教育施策推進課 指導主事 比良 彰男

令和3年11月12日開催された「小中一貫教育全国サミット in 北広島」大会も、無事成功裏に終わることができました。大会に携わった、授業公開校の各中学校区、開会式のオープニングイベントで児童・生徒にご参加いただいた学校、分科会の提言発表に当たられた地区など、本当に多くの皆様方に支えられて素晴らしい大会にすることができました。あらためて感謝申し上げます。



吉田教育長 あいさつ

今回の大会は、新型コロナウイルス感染防止のために、残念ながら全国からの参加者を北広島市にお迎えすることはできませんでした。そのため、授業公開や分科会をオンデマンド開催、開会式をライブ配信と、今までのスタイルとは異なった大会運営としましたが、全国各地からたくさんの方々の応募があり、視聴していただきました。

ライブ配信で行われた開会式では、オープニングイベントにおいて、西の里小児童会・西の里中生徒会による司会と北広島市の魅力の紹介、大曲中生徒による空手の演武、緑ヶ丘小児童・緑陽中生徒によるコンテンポラリーダンスの表現と、市内の児童・生徒による素晴らしい発表が行われました。花ホールにおいて一部制限を設けた上、観客を迎えての披露でしたが、多くの皆様からご好評をいただき、児童・生徒が躍動するオープニングイベントにすることができました。

その後、上野市長による歓迎の言葉（録画）、吉田教育長による挨拶と共同宣言、後藤教育部理事による「北広島市の小中一貫教育」の説明、北海道教育大学内山教授による「令和の小中一貫教育」と題した講演と、滞りなく進めることができました。全市一斉にスタートした北広島市の小中一貫教育4年間の実践を、しっかりと発信することができた開会式となりました。

各中学校区の授業公開、実践発表と助言者による講評、ならびに5つの分科会での提言、ディスカッション、講師による講評は、すべてオンデマンドということで1ヶ月前から日程調整を図り、録画・編集という作業に追われる状況でした。ハードスケジュールではありましたが、すべての授業や分科会に携わることができたことは、非常に有意義であったと感じています。

それぞれの中学校区において特色ある授業が展開され、児童・生徒が生き生きと授業に臨む姿はもとより、小中合同授業での児童・生徒の深まり、9年間を見据えた教育課程を基盤とした授業展開等、子どもたちの育ちを大切にされた素晴らしい授業実践が公開されました。

分科会では、5つのテーマに全国各地の実践が発表され、多くの素晴らしい取組を知る大変貴重な機会となりました。義務教育学校やCSを基盤とした小中一貫教育等、いろいろな各校の取組を通して確実な子どもたちの育ちを感じることができました。

コロナ禍における多くの制限がかかった中での全国サミットではありましたが、複数の公開授業や分科会を視聴することができた、何度も繰り返し視聴することができた等、オンデマンドならではのメリットもありました。北広島市における小中一貫教育の実践を、全国各地に幅広く情報発信することができた素晴らしい大会にすることができたことを確信しています。



後藤理事 北広島の小中一貫教育

# 令和3年度 東部中校区 小中一貫教育の取り組み

## 授業で紡ぐ小中一貫教育

東部中学校区は校区が広く、各校間の距離があり、学級数も多いことから日常的に全ての教育活動で一体となった取組を行うことは簡単ではありません。そのため、各校で共通する指導や環境の系統を整えること、学習の系統を整えることを大きな柱として小中一貫教育を進めてきました。

「挨拶・準備・思いやり」の3点からなる東部スタンダードを基盤に、めざす子ども像（15歳の姿）に向けて校区一丸となって取り組んでいます。



昨年度から今年度にかけては、新学習指導要領の完全実施にあわせて、育成をめざす3つの資質・能力を校区の全教職員の参画により具体化しています。

この3つの資質・能力を育みながら、めざす15歳の姿に向かって、「9年間の学びを教育課程で紡ぐ小中一貫教育」というテーマのもと、見方・考え方の質を高めていく授業づくりを通して、小中一貫教育のさらなる進化に向けて取組を進めてきました。

### 東部中校区の小中一貫教育の授業

教育課程に位置づく授業のつながりに目を向けて全学年・全学級で小中一貫教育の授業を展開しています。

2学期を中心に50本以上の授業実践を積み重ねてきました。その一部を紹介します。

#### 教科の課題に目を向けた授業づくり（国語）



小学校とのつながりを意識させる中1国語の授業

中1の国語では、調査の結果をふまえ、「問い」と「答え」を意識して読むこと、説明の順序に気をつけて読むこと、具体例から筆者の考えを捉えることなど、小学校からの学習のつながりを意識させた授業実践を行っていました。

#### 教科の課題に目を向けた授業づくり（体育）



体の動きを高めるための 小5・中2体育の合同授業

体力調査の結果をふまえ、体づくりや体の動きを高めるための手立てとして、小中合同の空手の合同授業を実施しています。

小5の「体づくりの運動」領域と中2の「武道」の領域を工夫し、教育課程に位置づけ、単元の設定をしています。異年齢による学び合いの場を設定することにより、下級生は憧れや目標として上級生の姿をとらえ、上級生は下級生に指導することで自己の学びの到達度がわかり、これからの見通しを持つことにつながられました。

自己の学びの到達度がわかり、これからの見通しを持つことにつながられました。

#### 教科の系統性を踏まえた授業づくり（道徳）

北広島市の小中学校で使用している光村図書道徳の教科書には3つの「学び直し教材」が設定されています。小中の教師がともに教材研究を深めながら授業づくりを進め、



小中合同の指導案検討

相互の授業参観を行うことで、「学び直し教材」の趣旨の理解が深まると考えました。小1・中1の学び直し教材「橋の上のおおかみ」では、発達段階の違いが児童生徒の考えに表れていましたが、それぞれ自分事として真剣に考え議論する姿が見られました。



東部中1年生の授業



東部小1年生の授業を北の台小・東部中の先生たちが参観

#### 3校の連携による大志学の授業づくり（総合）

東部中学校区の大志学は、総合的な学習の時間における地域や生き方についての探究的な学習を軸として展開しています。

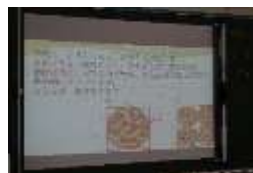
大志学の授業では、各校での取組の他に、普段とは異なる学習集団による学びの場を設定しています。



東部小・北の台小の3年生の共通単元である地域探究学習「ネイチャーチャレンジ！」では、まとめの報告会を、ICT機器を活用してリモートによる交流会の形で行いました。



小5・中1の合同授業「コンビニから見えるSDGs」では、異年齢によるグループ学習を通してSDGsがどのような目標であるかを知り、身近な事柄とSDGsを関連づけながら、多様な考えを出し合っていました。プラスチックゴミに焦点をあてた課題に対して、日常生活や各教科の学習で身につけた考え方や見方を広げる場面が多く見られました。



小6・中3の合同授業「どちらがお得か考えよう」では、日常生活における具体的な問題を、算数・数学で学習したことを活用して考える授業を展開しました。ピザを円として、たこ焼きを球ととらえ、求積の結果と値段に着目し、「どちらがお得か」を考察します。児童生徒による異年齢グループ学習を通して、教科の学習内容が社会の中で役立つことを実感することができました。



#### 全学年・全学級で教師全員が小中一貫教育に関わる授業を展開

- 校区のすべての子どもたちの成長や変容をとらえる場に
- 教育課程のつながりに目を向けたことで単元題材の理解の深まりに